

久木小学校校区住民自治協議会 広報 特別号 2025 年度保存版

9号

久小校区住民協の歩み

編集・発行

久木小学校校区住民自治協議会

逗子市久木 2-1-1

発行日 2025年12月1日

発行部数 5,600部

防災訓練



サロン活動



役員会



久木小学校校区住民自治協議会（久小校区住民協）は準備会から数えて今年で10年を迎えます。

この10年間、何を行ってきたのか、何ができなかったのか、逗子市における住民協の役割を考えながら、振り返ってみたいと思います。

久小校区住民協の役割

久木小学校区住民自治協議会の役割と今後に期待すること

逗子市では平成24年6月から、まちづくりトーク、5つの小学校区ごとの校区懇話会、全体懇話会、パブリックコメントなどで多くの市民の皆さまからいただいたご意見を踏まえ、「ずしの新しい地域自治」の仕組みをまとめました。これが現在の住民自治協議会となります。

久木小学校区では、平成27年6月21日に住民自治協議会設立準備会が立ち上がり、平成29年4月16日に久木小学校区住民自治協議会が設立されました。

活動としては久木会館を拠点とし、「久木朝市」、「みんなのカフェ」などを実施し、地域住民間の交流、多世代間のふれあいなどを目的に様々な催しを行っていただいております。また大規模災害に備え、情報共有の方法など避難所運営委員会にもご参加いただいていると伺っております。このような日頃の地域の人々とのつながりと信頼関係、また有事の際の情報共有が地域の防災防犯力の下支えとなっていると考えます。

久木小学校区住民自治協議会が行っている地域活動は、企画から実施まで地域の皆さまが主体となっていて行われており、地域においてともに考え、ともに行動するという良い循環ができています。これにより、この久木小学校地域の主体性、自主性がさらに醸成されていくことを期待しています。引き続き地域の個性や実情に応じて、きめ細かく対応するために、地域生活に関わる様々な課題に取り組んでいただきたいと願っております。

逗子市市民協働部 部長 岩佐 正朗

久木小学校区住民自治協議会/「住民協ひろば特別号」発行に当たって

久木小学校区住民自治協議会（以下久小校区住民協）は設立から8年、設立準備会からは10年を迎えることになります。「久小校区住民協」では広報の一環として、月刊「住民協ひろば」と年一回テーマを決めて「住民協ひろば特別号」を発行しています。今年は「久小校区住民協10年」の節目を迎え、地域住民及び団体の皆様に「久小校区住民協」の活動や活動の狙い等を改めて知って頂く為に敢えて「久小校区住民協」をテーマとして特別号を組む事と致しました。又、「久小校区住民協」に関わる者にとっても様々な事を見直す良い機会となればと願いを込めての発行となります。

最近の地域の状況を考えると、地域住民のニーズは高齢化が進み、核家族の崩壊、高齢者世帯の増加、格差の拡大、子育て・教育の対応、年々頻発化する災害、多発化する犯罪リスク対応等、地域の課題は複雑なものとなっています。

従来の画一化した行政対応では多様な社会・地域には対処できず、従来にも増して行政と地域の連携が必要なものとなっており、地域の皆様と連携してニーズを的確に捉え行政と連携して問題解決を図る一方で、行政と地域の繋ぎ役として円滑な地域対応が行える様、機能する組織で在りたいと考えております。

また、安全・安心で災害・犯罪に強く、且つ住んで楽しい地域を作る為には地域の人々の繋がりが大切なものとなります。「久小校区住民協」は各種イベントを企画、実行する事により地域の人々の繋がりを育む組織で在りたいと考えています。

久木小学校区住民自治協議会 事務局長 石井 達郎

逗子市における住民協の役割とは？

我々が暮らす地域にはさまざまな問題があります。例えば、ひとり暮らしの高齢者の見守り、災害が起こったとき、我々はどうしたらよいでしょうか？

また、各自治会や町内会では行うのが難しかったり、それぞれの自治会・町内会の連携が取りづらいとき、どうしたらよいのでしょうか？

地域の特色もあります。海側に住んでいる人、山側に住んでいる人、若い人、高齢者、商店街、住宅街、ひとり暮らし、大家族。



逗子市では、2012年（平成24年）から新しい地域自治についての取り組みが始まりました。まちづくりトーク、小学校ごとの懇話会、全体懇話会、パブリックコメントなどで多くの皆様からご意見をうかがいました。そして、より安全・安心で暮らしやすい、持続可能な地域社会を形成するために、新しい地域の仕組みを導入しました。

それが住民自治協議会、略して住民協です。

住民協の役割

- ・地域の課題解決や地域の個性や実情に応じた地域づくり。
- ・広く地域住民の意見、提案等を聞く機会や手段を持つ。
- ・活動方針や短期的・長期的な目標を取りまとめた「地域づくり計画」の策定。
- ・地域づくりに係わる地域住民の意見を代表し、市との協働、調整等の窓口になる。



住民協の区域：各小学校区

住民協の構成員：地域に住むすべての住民・在勤の方、各種団体（自治会・町内会）、自主防災組織、PTA、ボランティア団体、NPO等。

住民協の活動のため、逗子市が行うこと

支援1. 地域づくり交付金の交付。

支援2. 地域担当職員の配置。



- ・市役所各部の次長をリーダー、市民協働推進員3人をメンバーとした4人（2025年時点）で、庁内横断チームを組織する。

そして住民協は平成27年から29年にかけて4小学校区でスタートしました。地域全体で意見を出し合い、連携・協力することで、さまざまな地域の課題を解決し、地域の個性や実情に応じた地域づくりができるよう活動をしています。

久小校区住民協の足跡

2014年9月 (平成26年)	発起人会発足	住民協設立準備会のための準備会。各自治会から12人が参加
2015年6月21日 (平成27年)	設立準備会発足	2年間の予定期間で住民協の設立準備。地域から49人が参加
2016年2月16日 (平成28年)	福祉勉強会	講師を招き、地域安心サポート事業について学ぶ
2016年6月18日	準備会総会・懇話会	住民協の活動イメージ図を提示
2016年12月11日	地域と行政の合同ワークショップ	講師を招き、これからの地域のあり方について討議。50人が参加
2017年4月16日 (平成29年)	住民協発足総会	地域から67人、地域外から17人、合計84人が参加。活動の主体を4部会にすることを決定
2017年10月1日	住民協ひろば特別第1号を発行	5360部発行し、配る
2018年4月21日 (平成30年)	みんなの食堂プレオープン	122人が参加。久木と山の根の親子が、地域とつながるきっかけの場
2018年6月2日	コミュニティサービスを特定の地域で試行を決定	草刈り等の高齢者支援。山の根地区で試行開始。他地区への拡大できず
2019年2月9日 (令和元年)	久木会館改革の提案	久木会館活性化プロジェクトとして、次年度から開始することを予定
2019年4月25日	2019年度総会	地域から36人が出席。委任状16
2019年6～11月	減災マップづくりの街歩き実施	減災マップの基本データを街歩きで収集。全12回、延べ187人が参加
2020年9～10月 (令和2年)	久木会館でパブリックビューイングを開催	ラグビーワールドカップのパブリックビューイングを4回実施する
2020年4月25日	2020年度総会	コロナ禍のため、書面による総会とした。回収件数58件
2020年5月	減災地図を作成	2019年度から引き続いた減災地図の作成・配布が完了。5400部作成



準備会総会・懇話会



パブリックビューイング

各部会の変遷

ふれあい部会	コミュニティサービスとして、草刈り等の高齢者のお手伝いを行う。 →一部の地域ではできたが、全地域ではできず。住民の交流活動は、みんなのカフェ、朝市で行われている。	2025年度から、ふれあい部会と減災部会が統合し、福祉減災部となる。
減災部会	地域を包括した防災体制をつくる。 →地区防災拠点の設置他、避難所設置訓練を通じて継続。危険箇所調査の街歩き等を行い、減災地図の作成を行う。	
子ども部会	地域の人々の交流の場として、2018年にみんなの食堂をオープン。 →食事を通しての世代間交流の場として貢献したがコロナ禍で中断。規模を縮小して朝市と共催で実施。2022年みんなのカフェとして新たに発足。	2025年度に新設された企画部会に統合。
拠点部会	久木会館を拠点とし、パブリックビューイングや朝市等のイベントを行ってきた。	
久木会館	久木校区住民協が会館の管理者となり、会館の利用の管理・責任を行っている。	2025年度の建て替えが延期となる。

2020年7月18日	久木朝市開催	コロナ禍のため、会館の屋外でできるイベントとして企画。7～12月まで4回実施。60人ほどが来場
2020年8月13日	地区防災拠点について懇談	市が計画した地区防災拠点の不明点を質す。地区防災拠点設立のスタートとなる
2021年4月24日 (令和3年)	2021年度総会	出席者26人、委任状17人
2021年5～6月	災害危険箇所調査	市から調査依頼があり、15ヶ所を選定して報告
2021年11月18日	避難所設置訓練	逗子市防災安全課との合同の避難所開設訓練
2022年4月23日 (令和4年)	2022年度総会	出席者25人、委任状20人
2022年9月	みんなのカフェプレオープン	みんなの食堂に代わる多世代交流の場として開設
2022年11月26日	避難所設置訓練	逗子市防災安全課との合同の避難所体験訓練
2022年11～翌3月	久木会館でパブリックビューイング	サッカーワールドカップの試合をパブリックビューイング
2023年5月6日 (令和5年)	2023年度総会	出席者32人、委任状17人
2023年11月23日	避難所設置訓練	地区防災訓練を行う。安否確認、緊急無線連絡訓練を久木中学校で行う
2024年5月4日 (令和6年)	2024年度総会	出席者34人、委任状26人
2024年4月、6月	マンホールトイレ訓練	久中、久小にあるマンホールトイレの設置訓練
2024年5月、9月	防災散歩	久木、山の根地区の危険箇所を歩く
2024年9月	無線機を整備	各地域共通で、緊急連絡用無線機を購入
2024年11月17日	避難所設置訓練	前年から継続して、地区防災拠点を中心とした訓練を久木小学校で実施
2025年5月17日 (令和7年)	2025年度総会	部会を再編。地域から29人、委任状18人



危険箇所調査



マンホールトイレ設置訓練

各部会の活動の変遷

イベント名	開催主体	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ポールウォーキング	ふれあい部会	→		→ 終了						
みんなの食堂	子ども部会		→	→ 中断					→ 終了	
コミュニティサービス	ふれあい部会		→						→ 終了	
雑巾づくり	ふれあい部会									→ 継続
減災地図づくり	減災部会			→	→ 終了					
久木朝市	拠点部会				→					→
地区防災拠点	減災部会				→					→ 継続
危険箇所調査	減災部会					→	→ 一時中断	→		→ 継続
拡大版朝市	拠点部会						→			→ 継続
みんなのカフェ	子ども部会						→			→ 継続
地区防災訓練	減災部会						→			→ 継続
スイカ朝市	事務局									→ 継続
住民協ひろば発行	事務局	→								→ 継続

久小校区住民協の各部会紹介

減災・福祉部会

「うしろの正面だあれ！災害を囲い込む住まい人の輪」

福祉減災部会 部会長 森戸 久朝

減災部会設立の発想は、「災害に強い地域を創る会」の略称を意図したものだとしている。いわゆる「互近助」が根づく街づくりを目指すというものである。「互近助」とは、お互い近くに住む人たちが助け合う地域の基盤を醸成することである。その趣旨に合わせた、過去の減災部会の活動をあげれば枚挙にいとまがないが、特記すべきは、地域にお住まいの方々と「街歩き」を実施し、各地区でどのような災害リスクがあるのか、避難場所は、避難経路は、指定井戸・AED・公衆電話はどこにあるなどを一緒に歩いて検証し、この活動を通して得られた貴重な情報を基に、各地域に分割した詳細「減災地図」また校区全体の「減災地図」を作成し、地区住民全戸に配布したことであろう。

ちなみに「街歩き」には延べ187名を超える住民が参加し「地域を知る」、「人を知る」ことに大いに貢献した活動であったと言える。

一方、現在の主たる活動は「2021年度に実施した、「地域危険箇所（崖地）の調査と行政報告」のフォローである。当時、都市整備課の依頼に基づき、各自治会からの情報を基に現地調査を実施し、危険度が高いと判断した15地区を報告書として市に提出した。その後、提示した危険箇所に対する市の評価・対処方針につき諮問を実施したが、その時、経過観察となった地区が多く、4年が経過した現在の状況を再確認するとともに、新たな危険箇所があれば、市との情報共有を図る事を目的として現地調査を推進している。



危険箇所を歩く

また今後、5年経過した「久小校区減災地図」を最新の情報に更新すること、「地域防災拠点を中心とした包括的地域防災体制の構築」などを通じ、避難所準備委員会とも協力し、地域住民は無論のこと、ひとり暮らしの高齢者や要支援者の避難活動にも役立つ防災・減災体制を構築していくことを主眼として取り組む予定である。

「ふれあい部会から減災・福祉部会へ」

前ふれあい部会 部会長 龍村 敦子

今年の3月をもって生活支援ボランティア活動に代価をつけた「ふれあいサービス」活動ねらいの「ふれあい部会」を中止しました。包括支援センターからのニーズもあって当初は買い物支援、病院付き添い、家事援助など地域によっては庭木の伐採だけでなく活発な活動が展開しました。しかし、かわりをもったふれあいサービス利用者の入院、入所、またコロナ流行による閉塞社会などが絡み合って、2025年に活性化する兆しは見られず、納得の中止になりました。一方で、「減災部会」は防災地図の作成、急傾斜地区の街歩きのなどに実績を残してきました、しかし減災を鳥瞰的にみると避難行動要支援者など災害弱者に関する福祉的な視野も必要なことから、災害時にだれも取り残されない社会の実現目指して、平常時からの福祉的視点による防災の取り組みが必定です。減災部会にふれあい部会の要素を組み入れた「減災・福祉部会」の今後の活動にご期待ください。

企画部会

「新組織で新たな挑戦」

企画部会 部会長 石井 達郎

企画部会は今期より子供部会と拠点部会を統合して、企画部会として新たな組織体制としました。従来、子供部会は「みんなの食堂」の地域世代間交流事業を行っていました。しかし「みんなの食堂」事業がコロナ禍で停止していたことから、「みんなのカフェ」事業を立ち上げ、地域の子育て世代を中心に喫茶・飲食を提供しながら、各種講座、童話の読み聞かせ、フラワーブース等を開設運営し、地域の交流事業を行っています。活動の中心となる子育て世代の女性が仕事をし乍ら地域活動に参加・参画している為、組織上、企画部会の傘下に置いて、実働部隊をより機能させるべく組織変更を行いました。また従来の拠点部会は久木会館を久木地区のみならずより広く地域の活動拠点とすべく交流事業の企画・運営を行っていますが、相対的に若い世代の負担軽減の為に、今期よりこの機能も企画部会の傘下において、より機動的な組織運営を図る事としました。

企画部会の部会長は事務局を担当している石井が担当しますが、事務局の機能自体が各事業部会と連携してより効果的な活動を目指すものであり、企画部会を効果的に運営する事を狙った組織変更です。

今後は実働部隊との連携を密にして地域の活性化に繋がる事業展開を行います。また会館との連携も図りながら地域の活動拠点たる会館運営を目指します。

「みんなのカフェー地域にひらかれた多世代交流の場」

みんなのカフェ代表 門脇 茜

返子市久木で活動する「みんなのカフェ」は、地域の誰もが気軽に集える多世代交流の場として、2022年9月にプレオープンしました。今年で4年目を迎えます。原点は2018年1月に始まった「久木みんなの食堂」。月に一度、地域の方々が一緒に食卓を囲み、子どもから高齢者まで安心して過ごせる居場所をつくることを目指して始まりました。

コロナ禍で一時的に開催が難しくなりましたが、「形を変えてもつながりは絶やさない」という思いから、カフェという新しい形で再スタートしました。

みんなのカフェでは、地域のボランティアによる手づくりのランチプレートやお茶の提供のほか、手仕事のワークショップや体をケアするマッサージなども行っています。会場には温かな笑顔があふれ、毎回およそ50名の方が訪れます。それぞれのペースで過ごしながら、自然に会話や笑顔が生まれるのがこの場所の魅力です。最近では、子ども連れの親子や若い世代の参加も増え、世代を越えたつながりが少しずつ広がっています。



多くの方が楽しむ「みんなのカフェ」

運営で大切にしているのは「細くても長く続けること」。無理のないペースで、運営する側も参加する側も楽しく関われる場であることを心がけています。誰かが休んでも続けられる柔軟な体制を保ちながら、地域の変化に合わせて“いまのちょうどよい形”を探り続けています。みんなのカフェは、これからも地域の人と人をつなぎ、心と体の両方がほっとできる居場所として歩み続けていきます。

久木会館

久木会館の役割

久木会館館長 小林 寿志

地域活動センターである久木会館は2014年（平成26年）4月3日に開館式を行い、オープンしました。もともとは逗子清寿苑がデイサービスセンターとして運営をしていましたが、施設の使用目的が達成され、デイサービス事業が終了となりました。その頃、久木会館は久木神社の境内にありましたが、建物が老朽化し立て直しを検討していました。神社の境内には新しい会館が立てられず、いろいろと候補地を探していたところ、逗子市からデイサービスセンターの跡地がどうかとの打診があり、新久木会館設立準備委員会が立ち上がり地域住民で新会館の検討が進められ、久木連合町内会が新久木会館の指定管理者となり会館がオープンしました。



2014年の開館式に集まった皆さん

その後、2018年（平成30年）4月1日から指定管理者を久木小学校区住民協議会に移管し、現在に至っています。

久木会館は久木小学校の体育館の中にあり、立地条件にも恵まれています。また、さまざまに利用できる部屋やダンスに利用できる鏡のある部屋、さらには広いキッチンもあります。そのため、地域自治会・町内会、子ども会、体育会、PTA、サークル団体など多くの地域活動の拠点として利用され、逗子市内、市外の方にも多く利用されています。

77
イン
チの
大型
テレビ



2023年度（令和5年）には、宝くじ助成制度を利用して77インチの大型テレビを導入、利用団体が会議の時に使用しており、今後はスポーツ大会などでパブリックビューイングの実施を検討しています。

久木小学校のリフォーム事業計画の中で体育館の新築、それに伴う久木会館の新築が計画されていましたが、設計の中で誤りが見つかり、現在のところ工事は中止となっています。新しい久木会館の建設をとっても楽しみにしています。新会館は利用者の立場に立った施設となるように設計されており、完成後は、新しい施設を最大限活かして、地域の発展に寄与していきたいと思っています。

久木会館の当番を通じて

久木連合町内会福祉部 副部長 保坂 幸枝

2020年ころから久木会館の当番をしています。きっかけは町内会の役員会の席で、人が足りないのでどなたかお手伝いを、と言われ、私でよければとのことで始めました。当番をしていると、いろいろな人と知り合いになることができます。

現在久木会館では手作りの雑巾を1枚30円で販売しております。2020年2月頃住民協主催で「みんなで雑巾を作りましょう」と声を掛け、使わないフェイスタオルを寄付して頂きました。久木会館で50人位の老若男女が集まり、お茶をしながら作りました。最初はミシンでも縫っていましたが小学1～2年生がかたくてしぼりきれない！！と言うことで現在はすべて手縫いのみで縫っております。

御家庭で雑巾に出来るようなフェイスタオル（ホテル・旅館などで頂くタオルも）ございましたらぜひ久木会館迄ご寄付頂けたら幸いです。

久小校区住民協へ期待すること

久木小学校区住民自治協議会の講評と今後に期待すること

近年日本では、地震災害はもちろん、豪雨や台風による河川の氾濫、土砂災害、火山災害など様々な災害が起こり、甚大な人的・物的被害が発生しております。逗子においても7月30日の津波警報、9月5日に発表された大雨警報は記憶に新しいところです。久木小学校区では、逗子市で想定している地区防災拠点の構築にいち早く取り組み、市とともに地区防災拠点設置訓練を実施していただいております。

令和5年の訓練では、安否を確認するために黄色いタオルを玄関先に掲げるシグナルの実施や、WEBアンケートによる安否確認や必要な物資の要求などを取りまとめる取り組みなど、先進的な活動に目を見張るものがあり他の地域の模範となりました。

令和6年はそれに加え、寸劇にて課題を深掘りする取り組みがありました。いくら必要事項を講演の形で話しても、聞く側の集中力にも限界があり、例えば一方的な講演ではごく一部のテーマしか記憶に残らないかもしれません。ショート演劇で課題を示し、それを皆で検討する新しいやり方は素晴らしいことと感心しました。

今後も市は災害に対して備えて参りますが、日ごろより、防災に注力されている皆さまの活動は大変に心強く思います。市民の皆さまが安全・安心に暮らすことのできる逗子を実現するため、ともに協力して参りましょう。



逗子市長 桐ヶ谷 覚

住民自治協議会と共に創る地域共生社会

現在、超少子高齢社会を迎え、人々の価値観が多様化し、社会関係は希薄化しています。逗子市では高齢・障がい・生活困窮等の日常生活課題を、特定の制度や分野内で対応することなく、8050問題やヤングケアラー等の複合的課題について、必要に応じて「縦割り」の制度・分野間を横断し、包括的な支援を行う体制整備を進めています。また課題の解決に向けて必要な支援の提供にあたり「支え手」「受け手」という関係性を固定化することなく、場面に応じて役割が変えられる地域社会を目指しています。

そのため、地域の皆さんや多様な関係機関等が、地域の課題等に「自分ごと」として関わり、世代や分野を超えて繋がることで、地域の皆さん一人ひとりの暮らしと生きがい、そして地域を共に創っていく「地域共生社会」の実現を目指し、様々な取り組みを実施しています。

取り組みにあたり、地域の特性を踏まえ、地域の生活課題にきめ細やかに対応されている久木小学校区住民自治協議会の存在は、地域共生社会の実現に向けたパートナーとして非常に心強い存在です。

逗子市では、これからも久木小学校区住民自治協議会の皆様と連携・協働して、だれもが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける地域共生社会を目指してまいります。



久木小学校区地域担当職員 堀田 昌希

「地域のつながりを力に」

日頃より、地域に根差した活発な活動を展開され、まちの「つながり」を育んでくださっていることに、心より敬意を表します。

逗子市社会福祉協議会(以下、社協)は、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現を目指し、関係団体と連携しながら、福祉サービスや地域活動の支援を行っています。最も重要なのは、地域の皆さまで一人ひとりの「お互いさま」の気持ちと、それを形にする自主的な活動です。久木小学校地区住民自治協議会の皆様は、まさにその核を担ってくださっています。

コロナ禍を経て、世代を問わず、孤立や人と人との繋がり希薄さが問題視され、近年では「多世代」を意識した居場所づくりが注目されています。そのような時代の中、「みんなのカフェ」をはじめ、地域住民の皆さまで気軽に集える場等、誰もが孤立することのない、自分らしく活躍できる地域づくりに取り組んでくださっています。それらの活動を力強く推進されることを心から期待しています。

今、私たちは、新型コロナウイルスの影響、頻発する自然災害、そして少子高齢化のさらなる進行という、いくつもの大きな変化に直面しています。こうした時代だからこそ、地域コミュニティの「きずな」の力が見直されています。

久木小学校地区は豊かな自然と温かい人情が息づく素晴らしい地域です。社協も、皆さまの活動がより一層充実するよう、サポートを惜しみません。ぜひ、地域の皆さまの「困った」や「やりたい」を社協にもお寄せください。誰もが笑顔で暮らせる逗子の未来を共に築いていきましょう。



社会福祉協議会 地域福祉推進係 平山 智也

過去を見て将来に期待！

令和7年度の総会に於いて従来の組織を見直し変更いたしました。これまで久木小学校区住民自治協議会に於いては5つの組織、即ちふれあい部会、減災部会、子ども部会、拠点部会と久木会館部会でした。

これを減災福祉部会、企画部会と久木会館部会の3つの部会に統合しました。減災福祉部会は文字通り減災部会とふれあい部会を統合した部門で従前の減災部会は災害を防ぐ一方災害時にも安全・安心に生活を維持できるよう対策を講ずることを主眼とした組織でした。

これは変わりませんが、災害に遭ってもだれ一人残らず救助・救援するには何処にどんな障害を持った方がおられるのか、若い方か高齢か等分かなければ有効な救助・救援は行えません。この「人を知る」情報は従前のふれあい部会の得意とする範疇で、救助・救援には欠かせません。この情報が無ければ災害時により良い救助・救援は期待出来ないでしょう。

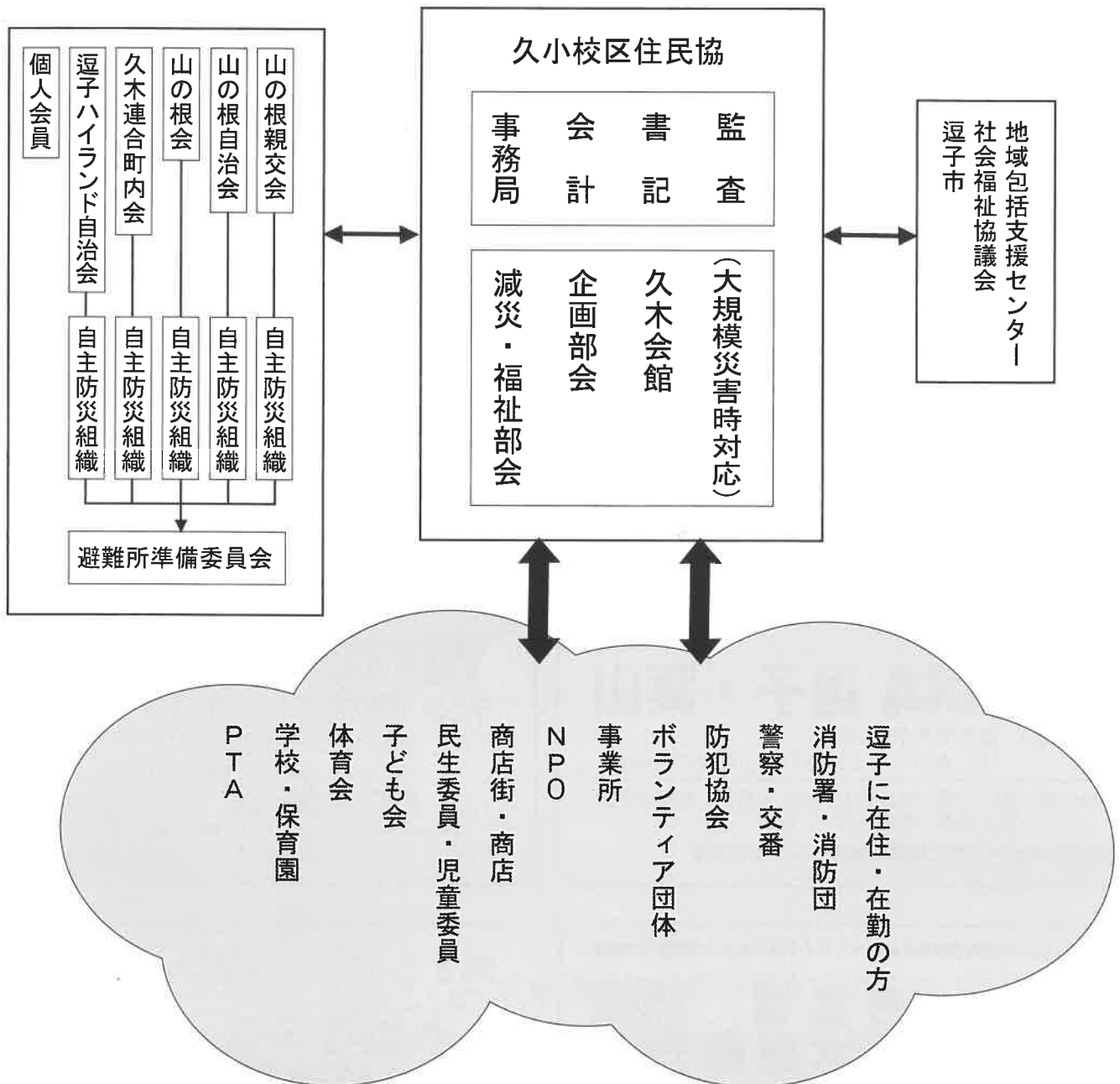
企画部会は従前の拠点部会と子ども部会を統合していますが、従前の拠点部会は企画部会と呼称を変更。現「みんなのカフェ」の実体は世代間交流の場として展開されていることから、子ども部会から切り離す。従来の「子ども部会」「ふれあい部会」が行っていた「みんなのカフェ」や「朝市」「拡大版朝市」等の地域交流事業を傘下にし、関連事業を円滑に展開できるようにし連携強化を図ることも企画の事業内容に含めました。

久木会館は従前通りですが、本来は会館新築の予定が設計変更になり白紙に戻ってしまったのは残念です。

会館維持のため会館スタッフの増員、電気代値上げに伴う使用料金の見直し等も検討材料になっています。

久木小学校区住民自治協議会 会長 山崎 徳次郎

久小校区住民協の組織図



編集後記

私が久小校区住民協の2代目会長職に就いたのは逗子ハイランド自治会会長を退いた1年過ぎ、理事に名を連ねていた時でした。2021年の冬のある日当時の住民協会長、事務局長と会計が来宅し「会長職を」と要請され、当時体調面に不安があり辞退したのですが結局2021年4月に会長職に就きました。2026年3月で満5年になります。

逗子ハイランドは久木8丁目が正式な地名で「ハイランド」は西武不動産が住宅地として売り出した時の商品名です。しかも鎌倉・逗子ハイランドと鎌倉が先に来っていますが鎌倉サイドは500戸に対し逗子サイドは1,500戸ですが商品名としては鎌倉の方が遥かにネームバリューがありますから仕方ありません。

久小住民協の構成自治会は久木連合町内会、逗子ハイランド自治会、山の根自治会、山の根親交会和山の根会で2025年5月現在総世帯数は3,770世帯です。

久小校区住民協会長 山崎 徳次郎

FLAG Zushi は地域の複合施設です

【宿泊】6人用 / 4人用 / 2人用（お子様含む）

【ミーティングルーム】1時間 800円（税抜）

【日替りBAR】17:00～22:00

【FP相談】初回相談無料！

【料理教室】※詳細はHP→

所在地：山の根 1-3-17
TEL：046-845-9293
HP：https://flag-local.com/

肉のノグチ

ハイランド店

〒249-0001

逗子市久木8-19-2

TEL 046-873-1129

営業時間 9時～18時半

定休日
毎週水曜日安心・安全で美味しい豆腐を作り、
皆様の健康に貢献します。

とうふ工房とちぎや

〒249-0001 逗子市久木 3-3-36

TEL 046-873-1112

営業時間 9時～18時

定休日 毎週水曜日

経済産業大臣許可互 第 3022 号
二葉冠婚葬祭互助会

逗子二葉会館

二葉会館アネックス

真心をこめてお手伝いします

(有) 二葉

逗子市久木 1-2-6

365日 24時間受付

046-871-2360

朝日新聞サービスアンカー

地域生活
応援企業

ASA 逗子・葉山

〒249-0001 逗子市久木1-1-11

TEL 046-871-2368/FAX 046-871-1620

取り扱い紙 朝日新聞、日経新聞、神奈川新聞、産経新聞、
東京新聞、各種スポーツ新聞

●折り込みチラシのご依頼もお待ちしております

Y読売センター逗子

〒249-0004 神奈川県逗子市沼間 3-8-18

TEL 046-871-3653 FAX 046-873-9550

140年以上の歴史 世界最大の部数

読売新聞

【取扱紙】読売新聞・日経新聞・日経産業新聞
神奈川新聞・スポーツ報知
読売KODOMO新聞
その他

介護予防 美しくなる 護身 健康長寿 修行 やせる 心を鍛える 初心者歓迎 礼儀作法

合気道
久木道場

毎週月・金曜19:00から 久木中学校 体育館

WEB https://zushi-aikido.jimdo.com/

TEL 070-9005-3575(野口)

仲間をつくる ストレス解消 身体を鍛える 生涯武道 有段者 老若男女 自己研鑽

焼きたてパンを朝食に

オープズ
Overs

逗子市久木 3-11-2 駐車場 3台有り

定休日：水・木曜日

営業時間：8時～18時

売り切れの場合閉店ございます

☎046-872-1352



河野新聞逗子販売所



毎日新聞



地元出発のバスツアーを開催しています

逗子市逗子 1-7-1

TEL:0120(17)2885

FAX:046(872)0628

NIKKEI

神奈川新聞

久小校区住民協 役員名簿

会 長： 山崎徳次郎
 副 会 長： 新倉洋一、長嶋啓、龍村敦子（書記兼任）、
 河辺寛、森田宗一
 理 事： 小林寿志、森戸久朝、鈴木為之、鈴木友行、
 大塚邦彦、瓶子純一
 事務局長： 石井達郎
 会 計： 芹沢ふさ江
 監 査： 増子俊雄、細野裕